

VI

継承語教育レッスンプラン： 実例 3 つ

継承語教育LESSONプラン：実例3つ

The Generic Curriculum for Heritage Language Program に準拠して

鈴木美知子

桶谷仁美

杉本陽子

ロックウッドゆきえ

The Generic Curriculum for Heritage Language Programsとは

1992年にトロント市教育委員会は、「International Language Program (Elementary)」の「Generic Curriculum」のドラフトを完成した。この「Generic Curriculum」は、1994年に出された「Common Curriculum」の草案に基づくもので、オンタリオ州では、21世紀の情報社会の要請に応えるため、従来のようにそれぞれの教科を単一に教えるのではなく、教科間の結び付きを重視し、グローバルな立場からトータルな人間育成を目指すことをねらいとし、この新カリキュラムを打ち出した。

この「Generic Curriculum」の「Common Curriculum」における位置づけだが、今までのように外国語教育と継承語教育をはっきり分けてしまうのではなく、オンタリオ州の多様文化・多様言語社会の利点を高く評価しながら、第一言語と第二言語の密接な関係を強調し、公用語だけではなく外国語や継承語の学習、修得も同時に活性化させていこうというのが目的である。

さて、「Generic Curriculum」の内容だが、対象は、幼稚園からグレード8までで、「Thematic Approach」(テーマ別アプローチ)を取っている。使用に際しては、教師が学習させたい事柄や季節、また行事に対応するようテーマを選び、自分のクラスの生徒の年齢や実状に応じてLESSONプランが立てられるようになっている。また、LESSON・プランを立てるに際して、次の三つの手順を必ず踏むようにと指示されている。

- 1) Experience and Communicate
- 2) Experience and Connect
- 3) Experience and Record

各段階はそれぞれ独立したものではなく、一つのテーマについて、1) これまで生徒が経験したことを再確認するために、教室で生徒間、または教師・生徒間で十分なコミュニケーションをはかる「Experience and Communicate」 2) これら経験したものと新しい知識をつなげる「Experience and Connect」そして、3) 更に深められた知識を様々な方法で表記、または発表する「Experience and Record」となっている。また、それぞれの学習過程において、教師や生徒間の意見交換やディスカッションなど、コミュニケーションな要素を十分に取り入れることを一番のポイントとしている。

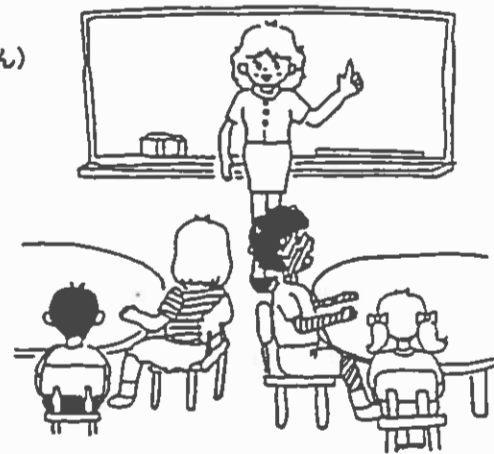
今回、トロント市教育委員会より、このカリキュラムの中から一つテーマを選び、三つの学年にわたってLESSONプランを作成するよう、各言語担当責任者へ要請が出された。日本語版については、「School Life」(学校生活)をテーマに、「楽しい教室作り」(幼稚園用)、「わたしたちの学校」(グレード1用)、「あそび場で」(グレード2用)を作成してみた。

幼稚園

「楽しい教室作り」

生徒に習得させたい語彙・表現

- 語彙 なまえ せんせい 名前+ちゃん (ようこちゃん)
- 表現 「名前+です。」
「なまえは？」
「こんにちは。」
「そうですか。」



ねらい

- ・ 友達づくり
- ・ 先生や友達の名前を覚えさせ、日本語のアクセントで言わせる。
- ・ ルールや順番を守ってゲームを楽しむ。
- ・ 新しくできた友達と協力し合う楽しさを経験させる。

教師は前もって担当クラスの日本語力を把握し、必要に応じてその単元で習得させたい文法項目や語彙を準備する。

1. Experience and Communicate

対象グループの大きさ

クラス全体／となり同士のペア

必要材料

- ・ 画用紙 胸に付ける名札用：3cm X 10 cm
机上用名札：5 cm X 15 cm
- ・ はさみ
- ・ マーカー
- ・ のり
- ・ 細いリボン（胸に付ける名札用）
- ・ 穴あけパンチ

準備

- ・ この活動に必要な語彙や文法事項を前もって準備する。
- ・ 名札
- ・ 教師用名札。
- ・ 生徒の胸に付けるもの。
- ・ 机の上に立てるもの。

会話は日本語で。



アクティビティー

「名前を覚えよう」

手順

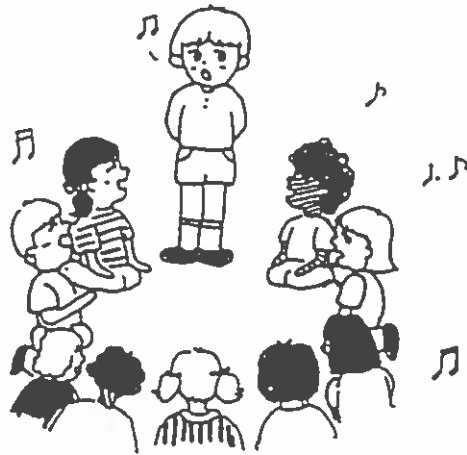
- ・ 第1日目なので、生徒全員を半円に座らせ、教師は生徒全員の顔が一目で見える位置に座って「これから一緒に勉強していく友達なので、早く皆の名前を覚えましょう。先生が皆の名前を聞きますから、大きな声ではっきりと自分の名前を言ってください。」と英語で指示する。
- ・ 教師が「先生の名前は～です。」と日本語で紹介し、同じことを英語で繰り返す。そして、胸に下げている名札を見せる。
- ・ 一人ひとり順番に立たせ「名前は？」と聞き、分からない時は英語で聞きなおす。
- ・ 言えた時は「名前+ちゃんね。」と日本語で（はっきりとしたアクセントで）繰り返す。
- ・ 本人に名前を確認しながら、用意しておいた名前を全員に見せ、読みながらそれを本人の胸に付けてあげる。
- ・ 席に着かせ、教師が机間を回り、一人ひとり「名前+ちゃん」と呼んで、机上用の名札を見せて、胸の名前と同じであることを確認させながら、それを机の上に立てる。
- ・ 「名前は？」という言葉であらためて紹介する。
- ・ 隣同士ペアを作らせ、お互いに名前を聞かせる。（教師は必要に応じて手助けする。）
- ・ ペアを順番に立たせて相手を指さし、「名前+ちゃん。」とクラスに発表させる。その都度クラス全員でその名前を繰り返す。

その他の参考アクティビティー

- ・アクティビティー「名前を覚えよう」の最初から3番目までをして、教師が「ここは日本語クラスなので、皆に日本語の名前をあげましょう。」と言う。なるべく本人の名前とかかわりのある日本名を付けてあげる。
- ・「名前+ちゃんはどこですか」の歌。

名前+ちゃん、名前+ちゃんはどこですか？
ここです、ここです、ここにいます。

- ・「名前+ちゃんはどこですか？」の歌を紹介・練習する。
- ・初めは教師が「名前+ちゃん、名前+ちゃんはどこですか。」と歌う。
- ・名前を呼ばれた生徒は「ここです、ここです、ここにいます。」と自分を指さしながら歌って答える。その時、残りの生徒は、歌のリズムにあわせて指さしを繰り返す。
- ・クラス全員が名前を呼ばれるまで繰り返す。早く友達に名前と顔を覚えてもらえるようにする。
- ・友達の名前を覚えはじめたら、名前を呼ぶ役を生徒に代えていく。



2. Experience and Connect

対象グループの大きさ：

クラス全体/ペア

必要材料

- ・カセットテープ：「マーチ」「こんにちは、おなまえは？」
- ・カセットテープレコーダー

準備

- ・この活動に必要な語彙や文法事項を前もって準備する。
- ・「マーチ」「こんにちは、おなまえは？」の曲をカセットテープに録音する。「こんにちは、おなまえは？」は何回か録音しておくとい。

会話は日本語で。

アクティビティー

「こんにちは、おなまえは？」の歌。

こんにちは、おなまえは？
ああああ～あ、そうですか。

その他の参考アクティビティー

- ・校長先生や、ケアテーカーをクラスに招待し名前を聞く。

手順

- ・「こんにちは、おなまえは？」の歌を紹介・練習させる。
- ・マーチをかけ、そのマーチに合わせて教室の中を自由に歩き回らせる。マーチが止まったところでそばの友達と手をつなぎ、円陣を作り座らせる。
- ・「こんにちは、おなまえは？」の歌でクラス全員の名前を聞く。
 - 生徒を一人立たせる。
 - 座っている生徒全員で「こんにちは、おなまえは？」と歌って立っている生徒に名前を聞く。
 - 立っている生徒は「名前+です。」と答える。
 - 座っている生徒全員で「ああああ～あ、そうですか。」と歌を終らせる。
 - 自分の名前を答えた生徒は、他の誰か一人を指さし、指名して座る。
 - 以上をクラス全員に順番がまわるまで繰り返す。
 - 以上を2回繰り返す。（生徒の集中度によって繰り返すか否かを判断する。）



3. Experience and Record

対象グループの人数

クラス全員・ペア

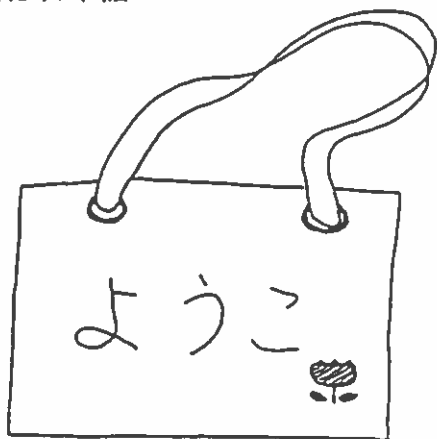
必要材料

- ・ 画用紙：カード用 (12cm X 18cm) - 生徒の人数分
- ・ リボン：名札用 (40cm) - 生徒の人数分
- ・ はさみ
- ・ マーカー

準備

- ・ この活動に必要な語彙や文法事項を前もって準備する。
- ・ 画用紙に先生を含めクラス全員の名前をひらがなで一枚一枚に書く。
- ・ 名前を書いたカードにリボンを付けて、首からかけられるようにする。(安全性のため、リボンは3~4cmの幅広いものを使用すること。)
- ・ クラス全員の名前カードは教師が持っていること。

会話は日本語で。



アクティビティー

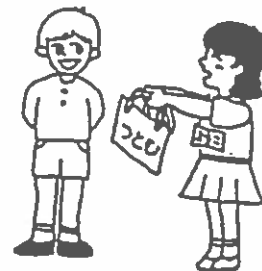
「名前当て」

手順

- ・ 「はい。」 「いいえ。」 「～です。」 の使い方の導入を英語でする。
- ・ マーチをかけ、そのマーチに合わせて教室の中を自由に歩き回らせる。マーチが止まったところで、そばにいる友達とお互いに名前を聞き合う。
 - 「名前+ちゃん？」 と聞き、相手は「はい。」 又は、「いいえ。」 で答える。
 - 「いいえ。」 の時は「名前は？」 と聞いて名前を覚える。
- ・ これを何回か繰り返し、色々な友達の名前を聞き、聞かれた人は答える。
- ・ 円陣を作り、先生が一人の生徒を立て「この友達の名前は？」 と皆に聞く。
 - 生徒全員で、その生徒の名前を言う。(「名前+ちゃんです。」)
 - 立っている生徒は、当たった時は「はい。」、当たらなかった時は「いいえ。」 と答える。
 - 「いいえ。」 の時は「こんにちは、おなまえは？」 の歌を全員で歌って、立っている生徒の名前を聞き出す。
 - 先生は、立っている生徒の首に、用意しておいた生徒の名前カードを掛けてあげる。
 - 名前カードを掛けてもらった生徒は、次の人を指さし、指名して座る。
 - 指名された生徒は立ち、全員でその生徒の名前を言う。
 - 最初から3番目までを繰り返す。
 - 指名した生徒が、先生から名前カードを受け取り、その立っている生徒に掛けてあげる。最後の生徒は、先生を指名し、全員で先生の名前を当てる。
 - 指名した生徒が先生の首にカードを掛けてあげる。

その他のアクティビティー

- ・「名前カードと自分の名前」
 - 1) 床または机の上に、生徒の名札を表にして、ばらばらに広げておく。
 - 2) 自分の名札を見つけて座る。
- ・「出欠」
 - 1) 壁にクラス全員の名札を下げておく。
 - 2) 朝、来た生徒から順番に、自分の名前を見つける。
 - 3) にこにこマークのあるウォールポケットに自分の名前カードを移す。
 - 4) 壁に残っている生徒の名前を確認し、先生がその日の出席簿を付ける手伝いをする。



Evaluation

教師が生徒の達成度を測るためには、あらかじめ準備された達成目標を基準に評価しなければならない。また、全体的観察、その単元での日本語習得内容、および活動を通して作成された作品などを総合的に評価しなければならない。これは各生徒の個性を育むと同時に、生徒の長所、短所をみつけ、改善助長するのに役立つ。なお、プログラムの発展の手がかりとしても参考資料として役立たせることができる。

生徒評価

- ・自分の名前がはっきり言えたか。
- ・先生や友達の名前を覚えたか。
- ・友達と仲よくできたか。

プログラム評価

- ・生徒がどのくらい指示に従い行動できたか。
- ・生徒がどのくらい積極的に行動出来たか。
- ・どのアクティビティーにおいて、生徒がよく日本語を使い、有意義だったか。また、どのアクティビティーが無意味だったか。
- ・紹介・提示した単語や表現がどのくらい定着したか。
- ・計画や指示に変更の必要があるか。

教師自己評価

- ・生徒の眼の高さで物を見たか。
- ・生徒の眼の高さで話をしたか。
- ・活動や作業の指示は適切だったか。
- ・生徒全員に発表の（話す）機会を与えたか。
- ・教師が話し過ぎなかったか。

1年生

「わたしたちの学校」

生徒に習得させたい語彙・表現

語彙 (名詞) がっこう・きょうしつ・ろうか・げんかん・まど・かいだん
たいいくかん・としょしつ・こうちようしつ・わたしたち
男の子・女の子・こうちようせんせい・せんせい・せいと
1～8ねん・1～__かい (階)・～つめ (目)・～にん (人)
ドア・トイレ・そば・となり・うしろ・まえ・上・下
右 (がわ)・左 (がわ) その他

(動詞) あります (ある) います (いる)

表現

「があります/います。」

「～ は、どこにありますか/いますか。」

「～ は、～ (の) ～にあります/います。」

「～ は、～ (階) に～ (人/つ) あります/います。」

漢字

上 (うえ) 下 (した) 右 (みぎ) 左 (ひだり)

人 (ひと/にん) 本 (ほん)

ねらい

- ・教室から視野を学校全体へと広げ、学校には教室の他にも色々な部屋があること、生徒や先生のほかにも色々な人がいることを認識させる。
- ・質問したり、それに答えたりさせる。
- ・アクティビティーを通して日常生活に必要な大切な語彙 (特に英語との干渉の発生しやすい語彙) を丁寧に復習、学習させる。
- ・学校生活に親近感をもたせる。
- ・言語4技能を発達させる。

教師は前もって担当クラスの日本語力を把握し、必要に応じてその単元で習得させたい文法項目や語彙を準備する。

1. Experience and Communicate

対象グループの大きさ

クラス全体をA・B 2グループに分ける。
(各グループの中で二人ずつのペアをつくる。)

必要材料

- ・大型の紙
- ・コンストラクション・ペーパー
- ・マーカー、鉛筆、クレヨン
- ・はさみ、のり

準備

- ・この活動に必要な語彙や文法事項を前もって準備する。
- ・大型チャートペーパーに学校の見取り図を描く。
- ・生徒用に学校見取り図の縮小版をつくる。

会話は日本語で。

アクティビティー

「学校ツアー」

手順

- ・クラス全体で〈学校〉についてどこにどんなものがあるか、だれがいるかなどのブレーン・ストーミングをし、アクティビティーを理解させる。
- ・ブレーン・ストーミングで出てきた言葉でアクティビティーに必要な語彙を教師が黒板に板書する。

・板書した語彙を整理し、不足しているものがあれば、教師が助言をしながら加えて、それぞれの項目に番号を付けた語彙リストをつくる。(この語彙リストはExperience and Recordのアクティビティーが終るまで黒板または壁に掲示しておく。)

・この語彙リストを印刷し、生徒全員に配布する。

・それぞれの部屋が、ひと目で分かるようなマークを生徒に考えさせ、作成させる。

例：わたしたちの教室・教室・トイレ・ケアテーカー室・水飲み場・物置・校長先生・その他

・「学校ツアー」に出かける。

・グループの中で、さらにペアをつくり、筆記道具と語彙リスト、学校の見取り図(縮小版)を持ちツアーに出かける。

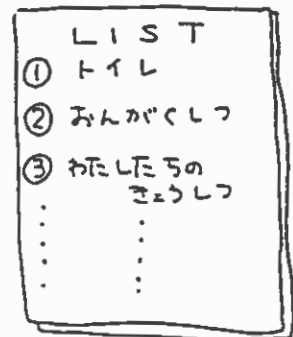
・二組のグループに学校の廊下をはさんで、それぞれの右または左にある教室が何であるかを調べさせる。

・語彙リストの中からその部屋の名称のリスト番号をみつけて見取り図のなかに記入させる。

・「教室」に戻る。

・両グループに、自分たちのメモを参照させながら、用意しておいた大型見取り図にそって、それぞれの部屋や人の名称を言わせ、あらかじめつけておいた部屋のマークを大型見取り図にはらせる。

例：「図書室はどこですか。図書室は2階にあります。」



その他のアクティビティー

- ・ヘッドドレスや小道具などを用意し、状況・タスクを与え、それを使ってごっこ遊び（先生ごっこ・ケアテーカーごっこ・その他）をする。
- ・新入生・転校生が来たと仮定し、みんなで学校案内をする。案内する役、案内される役はそれぞれ交替しながらする。

2. Experience and Connect

対象グループの大きさ：

クラス全体をA・B 2グループに分ける。

必要材料

- ・画用紙（2色）
- ・はさみ
- ・セロテープ
- ・マーカー（黒）
- ・わりばし

準備

- ・この活動に必要な語彙や文法事項を前もって準備する。
- ・色の違った四角の画用紙にOXをそれぞれ描き、手で簡単に持てるよう、わりばしを裏に付ける。生徒の数だけそれぞれ用意する。（OXカード）
- ・「私たちの学校」に関する文（内容が正しい文・内容が正しくない文をそれぞれ10個ずつ）を用意する。

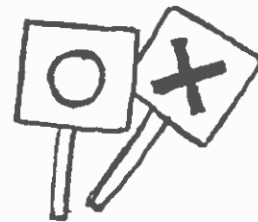
会話は日本語で。

アクティビティー

「クイズ：私たちの学校」

手順

- ・生徒それぞれにOXカードを持たせ、クラス全体をA・B 2グループに分ける。
- ・あらかじめ用意しておいた文を教師が読み、その文が正しいか間違っているかを生徒にあてさせる。
- ・それぞれのグループで正しいカードをあげた生徒を数え、グループの得点とする。
- ・たくさん得点が得られたグループが勝ち。



その他の参考アクティビティー

「ナゾナゾづくり」

例： 学校に一人、先生たちより偉い人だ一れ？（校長先生）

- ・クラス全体に本／写真／スライド／フィルム／ビデオなどを通し、日本の学校を紹介し、日本とカナダの学校や学校生活の違いを言わせる。

例：

- 1) 日本の学校にあって、カナダの学校にないもの。
- 2) カナダの学校にあって、日本の学校にないもの。
- 3) 両方に共通してあるもの。
- 4) その他、気がついたり、不思議に思ったこと。

3. Experience and Record

対象グループの大きさ：

クラス全体を3～6つのグループ（各3～4人）に分ける。

必要材料

- ・コンストラクション・ペーパー（3～6色）
- ・マーカー
- ・はさみ
- ・大型学校見取り図（Experience and Communicateで作成したもの）

準備

- ・この活動に必要な語彙や文法事項を前もって準備する。
- ・Experience and Communicateで作った文を、細長く切ったコンストラクション・ペーパーに大きく書き込む。同じものをグループの数だけ、違った色で用意する。それらの文を語彙単位で切り離し、カードにする。

会話は日本語で。

その他の参考アクティビティー

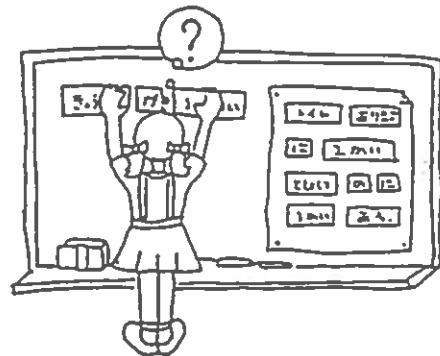
- ・本を作る。
- ・学校の中で見て、聞いて、触って感じたことを詩や文章にする。

アクティビティー：

「ことばつながりゲーム」（ワード・トレイン）

手順

- ・クラスを3～6つのグループに分ける。
- ・見取り図を参考にし、ばらばらになっているカードをつなげて、文を完成させる。
- ・完成した文をグループごとに発表させる。
- ・それぞれ発表された文のカードをグループにわけて黒板にはっていく。
- ・それぞれのグループが発表した文をくらべる。



Evaluation

教師が生徒の達成度を測るためには、あらかじめ準備された達成目標を基準に評価しなければならない。また、全体的観察、その単元での日本語習得内容、および活動を通して作成された作品などを総括的に評価しなければならない。これは各生徒の個性を育むと同時に、生徒の長所、短所をみつけ、改善助長するのに役立つ。なお、プログラムの発展の手がかりとしても参考資料として役立たせることができる。

生徒評価

- ・今まで習った単語や表現をうまく使えたか。
- ・新しく習った単語や表現を使うことができたか。
- ・質問をしたり、質問に答えることができたか。
- ・どのくらいのレベルの日本語を使うことができたか。
 - 単語レベル
 - 単語レベルだが、2つ以上の単語を組み合わせたもの
 - 単文レベル
- ・作業をどのようにこなせたか。
 - 自力でこなせた。
 - 少々の援助を必要とした。
 - かなりの援助を必要とした。
 - 仲間と協力して作業ができたか。

プログラム評価

- ・どのプログラムが生徒の興味を引いたか。

- ・生徒が最もよく学んだのはどのアクティビティか。
- ・生徒のコミュニケーションの力を発達させるために、どのような機会を与えることができたか。
 - 個人レベル
 - 生徒間レベル
 - 小グループレベル
 - 大グループレベル
- ・どのアクティビティが効果的だったか、または効果的でなかったか。
- ・今後どのような点に改善が必要か。
 - プログラム・デザイン
 - プログラムの進行

教師自己評価

- ・生徒の目の高さで物を見たか。
- ・生徒の目の高さで話をしたか。
- ・活動や作業の指示は適切だったか。
- ・生徒全員に発表の（話す）機会を与えたか。
- ・教師が話し過ぎなかったか。

2年生

「あそび場で」

生徒に習得させたい語彙・表現

復習語彙	私 ぼく みんな がっこう その他
学習語彙	<名詞> 山 川 みち こうえん まち 木 いえ はし その他
	<動詞> つくる あそぶ する とぶ こぐ
	<助詞> を も が の
	<代名詞> これ それ あれ この その あの
表現	「～の～」 「～が～もつくる/つくった。」 「～が～もつくる/つくった。」 「これ/それ/あれは～です(か)。」 「～ができた。」

ねらい

- ・アクティビティーを通して、自然な日本語を身につける。
- ・自分の希望・意見を発言させ、日本語に自信を持たせる。
- ・アクティビティーを通じて語彙を増やし、復習語彙を定着させる。
- ・言語4技能を発達させる。
- ・協調性を養い、仲間との共同作業の喜びを体験させる。

教師は前もって担当クラスの日本語力を把握し、必要に応じてその単元で習得させたい文法項目や語彙を準備する。

1. Experience and Communicate

対象グループの大きさ

クラス全体/ペア

必要材料

- ・画用紙
- ・マーカー
- ・クレヨン
- ・わりばし
- ・のり
- ・セロテープ
- ・卵ケース
- ・空き箱
- ・その他

準備

- ・この活動に必要な語彙や文法事項を前もって準備する。
- ・プリント「みんなのまち」を生徒の数だけ用意する。(準備プリントは最終ページに添付)

会話は日本語で。

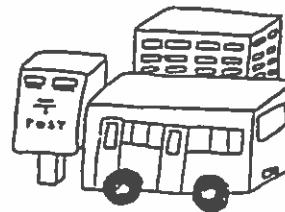


アクティビティー

「みんなのまちの部品作り」

手順

- ・いつも遊び場で、どんなことをして遊ぶのか、どんな物があるのか、話し合いをさせる。
- ・各自にプリントを渡し、これは遊び場のどこで、誰が何をしているかを発言させる。
- ・皆でつくる「みんなのまち」には何をつくりたいか話し合いをさせる。
- ・話し合ってきた必要なもの(いえ・学校・ビル・木・花・ポスト・その他)の絵を、画用紙や色画用紙を使い、裏・表とも描かせる。
- ・裏・表の絵の間に、割り箸をはさんでのりづけさせる。
- ・橋や汽車、自動車なども工夫して作らせる。



その他の参考アクティビティー

- ・遊び場に行き、何がどこにあるかメモをとらせ、教室で大型の紙に絵で再現させ、それぞれについて口頭で描写させる。
- ・空きビン、空き箱、ビニール袋など採集容器やスケッチブックなどを持たせて遊び場に行き、ペアーになって興味のある物を見つけさせ、教室に持ち帰らせる。

2. Experience and Connect

対象グループの大きさ

クラス全体

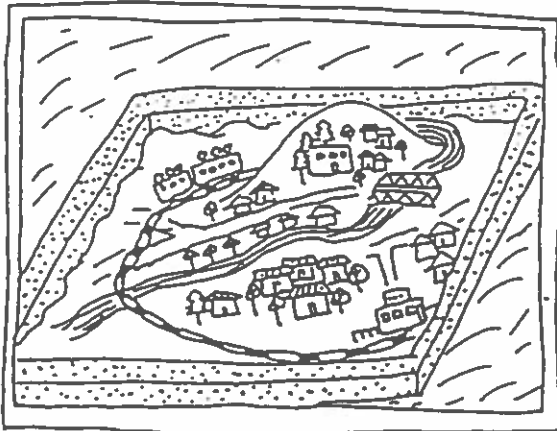
必要材料

- ・シャベルなど砂場で使う道具
- ・カメラ
- ・皆でつくった部品

準備

- ・この活動に必要な語彙や文法事項を前もって準備する。
- ・必要な材料を集め、カメラにフィルムを装填する。

会話は日本語で。



アクティビティー

「みんなのまち つくり」

手順

- ・生徒全員で砂場に行く。
- ・みんなで手分けして、砂場に山・川・線路・道路・公園・その他をつくらせる。
- ・それぞれのところに、自分たちでつくったものを挿したり、置いたりしてみんなの町を完成させる。
(この作業中、教師は意識的に学習させたい語彙や表現を使わせるように心がける。)
- ・完成した町について、話し合いをさせる。
例：
「～は、誰がつくった／つくりましたか？」
「～さんは、何をつくった／つくりましたか？」
「せつめいして／せつめいしてください。」
- ・完成した「みんなのまち」の写真をとる。

その他の参考アクティビティー

- ・自分たちが「遊んでみたいな。」と思う遊び場を紙の上でつくり、なぜこのような遊び場が欲しいのかを発表させる。
- ・採集物やスケッチした物が何なのか、図鑑や辞典、参考書などで調べさせる。
- ・ビデオ、スライド等で「こどもの四季」、「草花の育ち方」などを学習させる。
- ・遊び場でできる遊びを工夫し、遊んでみる。
- ・学習した語彙をつかってクロスワード・パズルをつくる。



3. Experience and Record

対象グループの大きさ

クラス全体/ベアー

必要材料

- ・大型の紙
- ・クレヨン (バステル)
- ・カラーマーカー
- ・「みんなのまち」の写真

準備

- ・この活動に必要な語彙や文法事項を前もって準備する。
- ・写真「みんなのまち」から得られる語彙リスト (教師用)

アクティビティー

「みんなのまちの絵地図づくり」

- ・みんなで作った町の写真を展示し、それぞれについて話し合わせる。
- ・写真の中にあるそれぞれのものを指摘させ、その名前を黒板に列記する。
(漢字でかけるものは漢字で)
- ・絵地図の中にそれぞれが何を書き込むかを決めさせる。
- ・それぞれの絵に、黒板のリストを活用し、名称を記入させる。
- ・完成した絵地図を展示する。

会話は日本語で。



その他の参考アクティビティー

- ・各自、「～が～をつくった。」という文と、その絵を描き、クラス全体のものとして、本にする。
- ・学習語彙や表現を使って、見て、聞いて、触って感じたことを詩や文章にする。

Evaluation

教師が生徒の達成度を測るためには、あらかじめ準備された達成目標を基準に評価しなければならない。また、全体的観察、その単元での日本語習得内容、および活動を通して作成された作品などを総括的に評価しなければならない。これは各生徒の個性を育むと同時に、生徒の長所、短所を見つけ、改善助長するのに役立つ。なお、プログラムの発展の手がかりとしても参考資料として役立たせることができる。

生徒評価

- ・今まで習った単語や表現をうまく使えたか。
- ・新しく習った単語や表現を使うことができたか。
- ・質問をしたり、質問に答えることができたか。
- ・どのくらいのレベルの日本語を使うことができたか。
 - 単語レベル
 - 単語レベルだが、2つ以上の単語を組み合わせたもの
 - 単文レベル
- ・作業をどのようにこなせたか。
 - 自力でこなせた。
 - 少々の援助を必要とした。
 - かなりの援助を必要とした。
 - 仲間と協力して作業ができたか。

プログラム評価

- ・どのプログラムが生徒の興味を引いたか。
- ・生徒が最もよく学んだのはどのアクティビティーか。
- ・生徒のコミュニケーションの力を発達させるために、どのような機会を与えることができたか。
 - 個人レベル
 - 生徒間レベル
 - 小グループレベル
 - 大グループレベル
- ・どのアクティビティーが効果的であったか、または効果的でなかったか。
- ・今後どのような点に改善が必要か。
 - プログラム・デザイン
 - プログラムの進行

教師自己評価

- ・生徒の眼の高さで物を見たか。
- ・生徒の眼の高さで話しをしたか。
- ・活動や作業の指示は適切だったか。
- ・生徒全員に発表の（話す）機会を与えたか。
- ・教師が話し過ぎなかったか。

Contributors:

Masako Khan, Head, Montreal Japanese Language Centre, Montreal, Quebec

Michiko Kida, Instructor, Toronto Kokugo Kyoshitsu Heritage Language School (Kokugo Kyoshitsu) & The Giles School, Toronto, Ontario

Yukie Lockwood, Instructor, Kokugo Kyoshitsu, Toronto, Ontario

Akira Murasawa, former JICA Senior Japanese Language Specialist

Kazuko Nakajima, Associate Professor, Department of East Asian Studies, University of Toronto, Toronto, Ontario; President, Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)

Yukiko Nakamura, former Instructor, Kokugo Kyoshitsu, Toronto, Ontario

Hiroko Noro, Assistant Professor, Department of Asia Pacific Studies, University of Victoria, Victoria, British Columbia

Hitomi Oketani, Assistant Professor, Department of Foreign Languages and Bilingual Studies, University of Eastern Michigan, Ypsilanti, Michigan

Katsue Reeve, Tutor, Department of German, Queen's University, Kingston, Ontario

Yoko Sugimoto, Instructor, Kokugo Kyoshitsu, Toronto, Ontario

Michiko Suzuki, Principal, Kokugo Kyoshitsu; Vice-President, CAJLE

Kazuhiko Takahashi, Head, Waterloo Japanese Language Program, Waterloo, Ontario; Editor of the CAJLE Newsletter

Akiko Takemura, Head, Ottawa Japanese Language School, Ottawa, Ontario

Yuriko Tanaka, Principal, Calgary Japanese Language School, Calgary, Alberta

Natsuko Wilson, Lecturer, University of Western Ontario, London, Ontario

Richard Y. Yagi, Chairman of the Board, Vancouver Japanese Language School, Vancouver, British Columbia

Takeo Yokoyama, Principal, Richmond Japanese Language Institute, Richmond, British Columbia; Vice-President, Japanese Language Teachers' Association in British Columbia

著者紹介（50音順）

- | | |
|--|--|
| ウィルソン夏子
University of Western Ontario日本語講師 | 桶谷仁美
University of Eastern Michigan日本語科助教
カナダ日本語教育振興会理事 |
| カーン昌子
モントリオール日本語センター所長 | 木田美智子
トロント国語教室・The Giles School教師 |
| 村沢晃
元シニア日本語教育専門家 | 中島和子
University of Toronto東アジア研究科准教授
カナダ日本語教育振興会会長 |
| 中村行子
元トロント国語教室教師 | 野呂博子
University of Victoriaアジア太平洋学助教授
カナダ日本語教育振興会理事 |
| 杉本陽子
トロント国語教室教師
カナダ日本語教育振興会理事 | 鈴木美知子
トロント国語教室校長
カナダ日本語教育振興会副会長 |
| 高橋和比古
ウォータールー日本語プログラム主任
カナダ日本語教育振興会理事
振興会ニュースレター編集長
Nihongo Circle (日本語教育教材通信販売) | 竹村昭子
オタワ日本語学校代表 |
| 八木慶男
バンクーバー日本語学校理事長 | 田中百合子
カルガリー日本語学校校長 |
| リーブ勝江
Queen's University 日本語講師 | 横山赳夫
Richmond Japanese Language Institute学院長
B.C.州日本語教育振興会（JALTA）副会長 |
| | ロックウッドゆきえ
トロント国語教室教師 |

継承語としての日本語教育—カナダの経験を踏まえて—

1996年12月15日発行

発行 カナダ日本語教育振興会（CAJLE） 代表中島和子
382 Harbord Street, Toronto, Ontario Canada M6G 1H9
印刷 エディシオン・ソレイユ印刷株式会社

©1997 CAJLE

JAPANESE
AS A HERITAGE LANGUAGE:
THE CANADIAN EXPERIENCE

継承語としての日本語教育
—カナダの経験を踏まえて—

Edited by

KAZUKO NAKAJIMA, ASSOCIATE PROFESSOR, UNIVERSITY OF TORONTO

MICHIKO SUZUKI, PRINCIPAL, TORONTO KOKUGO KYOSHITSU
HERITAGE JAPANESE LANGUAGE SCHOOL

for

**Canadian Association
for Japanese Language Education**

A collection of essays, research papers, lesson outlines, and a teacher's guide written by outstanding researchers and practitioners involved in the teaching of Japanese as a Heritage/International language for more than 20 years. Administrators, instructors, future teachers and other colleagues involved in the teaching of Japanese as a Heritage/ International language in Canada, as well as those who teach Japanese to children and young learners as a heritage/second/foreign language in other parts of the world, will find this publication invaluable.

Major contributors:

Masako Khan • Michiko Kida • Akira Murasawa
Kazuko Nakajima • Yukiko Nakamura
Hiroko Noro • Hitomi Oketani • Katsue Reeve
Michiko Suzuki • Kazuhiko Takahashi
Akiko Takemura • Yuriko Tanaka • Natsuko Wilson
Richard Y. Yagi • Takeo Yokoyama

ISBN 0-921831-44-7

Printed in Canada

éditions **SOLEIL** *publishing inc.*

P.O. Box 847 • Welland, Ontario L3B 5Y5 • Tel. / Fax: (905) 788-2674
P.O. Box 890 • Lewiston, NY 14092-0890 • Tel. / Fax: (905) 788-2674